

株式会社 塚崎修商店

対象類型 デザイン・精密加工
事業類型 一般型：先端設備等導入計画の認定取得
主たる目的 商品開発、市場開拓

木質繊維板を活用した新たな木製品の 提案・開発及び製造ラインの構築



1／レーザー加工機の導入により生産時間が大幅に短縮された。 2／パーティクルボードだけでなく、多彩な材料への加工が可能。 3／スライドソーの導入により、形状加工が1台で可能になった。 4／パーティクルボードへの直接色づけができるUVインクジェットプリンタ。

レーザー加工機などの導入で、新分野の商品開発にチャレンジ。

パーティクルボードなど建築資材の販売・加工を行う塚崎修商店は、住宅着工数の減少に伴い既存事業の売上減少が想定されることから、端材を活用した新規分野の進出を目指した。新たな需要の開拓に向けては、北陸最大の取扱量を誇るパーティクルボードの加工ノウハウを活かし、BtoC向けの自社オリジナル商品の開発・製造を計画。対応できる加工種類の拡大と強みである「極小ロット・超短納期体制（翌日配送）」の強化を図るため、新鋭設備3台の導入に踏み切った。

導入されたレーザー加工機は非接触での切削加工ができるため、脆い材料であっても彫刻の微細加工が可能に。スラ

イドソーは複数台で行っていた縦横の切断、斜め・溝の形状加工を1台に集約することに成功した。一方、UVインクジェットプリンタはフルカラーでのイラストや文字の印字が可能になり、パーティクルボードへの印刷加工の実現につながった。色や形状が1品ごとに異なる加工が可能になったことで、極小ロットによる自社オリジナル商品の生産体制が整った。

今後は、新たな市場開拓を見据え、消費者や企業が企画デザインした雑貨などを受注・オンデマンド生産して販売する仕組みの構築を目指す。

注目すべき成果

BtoC向けの 自社オリジナル製品を開発。

小ロット加工の生産体制が確立されたことで、完全オリジナルの自社商品開発が可能になった。パーティクルボード加工のノウハウを活かし、雑貨や文具、家具などの商品開発で他社との差別化を図っていく。

注目すべき成果

大幅な生産時間の 短縮に成功。

レーザー加工機は微細な加工が可能で、既存の小型レーザー機と比較しても作業時間が240秒から25秒まで短縮された。これまで小ロットの形状加工には8時間かかっていたが、導入されたスライドソーは6時間での加工に成功した。強みである「極小ロット・超短納期体制（翌日配送）」の強化にもつながった。

今後の展望

新規分野からの 需要取り込みを狙っていく。

商品開発力が強化されたことで、新規分野からの受注機会も拡大。北陸新幹線の敦賀駅開業による観光産業の需要取り込みも見据える。観光地のオリジナル土産品などを開発し、雑貨店オリジナル、ノベルティ向け商品の提案へと順次拡大していく。

ものづくり専門員から一言

ものづくり補助金が、新分野の トップランナーへの道を切り拓く。

欧米諸国ではなじみのあるパーティクルボード。欧米諸国では外装などに用いられることも多いが、日本でパーティクルボードをそのまま活用した商品はほとんどない。それだけに同社がこの分野でシェアを拡大すれば、トップランナーになれる可能性は高い。

こんな会社です！

すべてのお客様の要望に応える、 木製品加工のプロ集団。

当社は1983年に創業以来、木質繊維板をはじめ平行合板や普通合板などの販売・加工を行ってきました。資材の仕入れから加工・検品・梱包、配達までを自社で対応しており、“美しく、早く、正確に”をモットーに30年以上継続して、すべてのお客様の要望に応えてきました。おかげさまで当社主力のパーティクルボードに関しては、北陸で最大の取扱量を誇るまでに成長し、国内の建築用・家具木工用を含めた総生産量の1%を占めるまでになりました。近年は環境問題にも配慮し、当社では二酸化炭素排出規制に適合した木質繊維板を扱い、地球環境に貢献できる商品を提供しています。今後も「地球にやさしい製品づくりのプロ集団」として、社員一同努力し続けていきます。



自社の端材で製作されたオリジナル製品。



取締役専務
塚崎 雅也さん



マンションや建材メーカー向けの
建築用装飾資材を製造する。

株式会社 塚崎修商店

代表者：代表取締役 塚崎 真治
設立：1983年（昭和58年）12月
資本金：1,000万円
従業員数：36人

事業内容：木材・木製品製造業（家具を除く）

本社：〒915-0814 越前市中央2-3-3
☎ 0778-22-2303 FAX 0778-25-6566